

【技術パート総括】

◎活動報告

3月29日(木) 70代研修
3月31日(土) 70代研修
5月4日(金) 練作リハ
5月5日(土) 練作
5月19日(土) 71代研修(交通費支給)
5月26日(土) 71代研修(交通費支給)
6月9日(土) 構進リハ
6月16日(土) 全体リハ
6月17日(日) 全体リハ
6月22日(金) 前日リハ
6月23日(土) 駿河台番発

◎70代研修

今年の技術パート2年も昨年と同様に、技術パート経験者が多かったのですが、放送事故ゼロの達成と基本的知識の確実な定着のために、技術面での更なる向上と機材の知識の確認を行いました。具体的な研修内容は、パート員を音響班と映像班に分け、全ての機材の使用方法的確認した上で、実際に設営し、模擬番発を行う形で、学習しました。その結果、2年生だけで機材の設営・運用を円滑に行えるようにしました。

また、1回目の70代研修では駿河台番発前技術パート長の河村昂さんに PC 関連の講習も行っていただき、パート員の技術力を向上させることができました。河村昂さん、ありがとうございました。

◎練習作品発表会

練作における技術パートの活動は前日リハから始まりました。今年は、昨年に比べ、ラジオの班が増え、当日の一班ごとのリハーサル時間が大変短くなってしまい、一年生には大変申し訳なく思っております。ですので、来年もラジオ班が多い傾向が続くのであれば、前日や別日にラジオのリハーサル時間を取るべきだと思います。また、映像作品やラジオの音源の提出については、2年生の協力もあり、スムーズに進みました。ご協力ありがとうございました。

また、今年はラジオでエコーをかけるために、マルチプロセッサーを使用しました。しかし、マルチプロセッサーのデメリット(ハウリングを引き起こしやすくなる)や教室の環境(教室が小さいとハウリングが起きやすい)のため、1部の終わり頃まで、ハウリングが継続的に起こりました。この件について、マルチプロセッサーの研究をもう少しして、ハウリングのリスクをもっと考慮した上で、技術パート長としての判断を下すべきだったと思います。

さらに、昨年の練作では、マイクの音が下の教室に飛んでいるというトラブルがありましたが、今年はワイヤレスマイクを使用しないことで、解決しました。

練作はその年の駿河台番発技術の土台作りと言えます。ここで、土台を完成させ、練作でトラブルをなるべく多く洗い出し、対策を行い、技術パート全体のレベルアップにつなげていただきたいと思います。

◎71代研修

5月に71代を対象とした技術研修を2回行いました。1回目は1年生のみを対象とした集まりにし、2回目は2年生も含めた全員の集まりにしました。

1回目は番発技術の概要を説明し、8の字巻きをマスターしてもらいました。

2回目は2年生が1年生に機材を教える形で、実際の機材を使用した実践演習を行いました。1年生には男女に分かれてもらい、音響と映像の二つを交代で学んでもらい、その後、自分の希望する機材に1年生はついて、2年生が指導する形で、研修を行いました。去年の「専属制度」とは少し違いましたが、本番の担当機材も研修で担当した機材とほぼ同じものになりました。

71代研修で、一年生が一生懸命受講していただいたおかげで、番発のリハやと前日の設営・撤収もスムーズに行うことができました。

◎リハーサル

技術的には概ね順調に終わりました。リハーサルの前に、構進パ長、企画パ長と入念な打ち合わせを行い、リハーサルが円滑に進行できるようにしました。しかし、リハーサルでは、変更点の確認や十分な通しリハを行うために、時間を延長することもありました。(具体的には最大で2時間ほど)この点、今年の駿河台番発では新しいことに多く挑戦したので、結果として、リハーサルに多くの時間を必要としました。しかし、安易にリハーサルの回数を増やし、時間を長くすることはパート員の負担となることもあるため、仕方がなかったと考えております。

◎前日リハ

今年も昨年同様に、当日午前のリハーサルの時間を確保するために、前日のうちに機材の設営を終わらせました。設営では、この日の教室申請のトラブルで、前日リハの後に、一度機材を撤収して、再度設営を行うというトラブルがありましたが、パート員・手伝ってくれた方のご協力のお陰で、なんとか閉室時間までに設営を完了させることができました。ただ、こうしたミスは絶対にあってはならないミスであり、結果として、リハーサル時間が短縮された、設営を2回する必要が生じたなどの影響が出たため、再発防止策をしっかりと講じていただきたいと思います。リハーサルは前半を企画パート(変更点と流れの確認)と行い、後半を構進パート(最終調整)とリハーサルを行いました。

◎作品提出について

昨年の映像作品提出管理は構成進行パート長と共同で行いましたが、今年の駿河台番発では、第一部と第三部を完全に演劇とし、フリートークをなくしたため、技術パート長のみで行いました。

また、本年も映像作品の提出が締め切りに間に合わないという問題が発生しました。6月4日(月)を締め切りとすることを事前に周知しているにもかかわらず、前日・当日

(本番中)の提出もありました。前日、当日朝の提出は通常に対応が何とかできましたが、本番中の作品提出は別途の対応を必要としました。具体的には当日上映する作品の順番を入れ替えることになり、演出、リアクションペーパー、技術パートの職務に影響が生じました。対応といたしましては、作品上映後に作品名のアナウンスを行う、開演時刻を遅らせ、休憩時間を大幅に延長し、技術の送出ソフトのリストの順番を組み替えるという対応を行いました。また、本番中に提出された作品を十分にチェックできず、容量の圧縮のみを行い上映することになりました。こうしたことは放送事故につながります。事実、本番中に提出された作品二つの作品のうち一つは途中で長い黒みがあり、編集する時間がなかったため、送出 PC 担当者が飛ばすという対応をし、もう一つは BGM の音量が大きすぎ、セリフの聞き取りにくいシーンがあったため、ミキサーで調整を行いました。提出期限を早めに設定しているのは、提出された作品を十分にチェックし、不備がある場合の対応の期間を確保するためです。ですので、提出期限は守ってください。そして、仮提出をもっとしっかり行うべきだったと思います。たとえば、締め切りの日に完成していなくても、仮提出を行うことで、その段階での内容のチェックを行うことができたと思います。ですので、来年は仮提出を設けるべきだと思います。提出が遅れた原因には、製作者が期間内に完成できなかったことや制作パート内でのサポートが不足していたこと、使用できる機材・PC に限りがあることなど様々なことが挙げられます。確かに、使用できる PC や使用できる機材の数に限りがあるため、今後、正常に動く PC を増やす、編集ソフトの互換性を高めるなどの物理的対応も必要かつ有効であると考えますが、番組要綱で事前に周知したことを守ることを今一度、製作者側が意識することも必要であると考えます。

また、提出に関し、Google ドライブに提出するよう番組要綱で周知しておきながら、十分な周知を怠ったため、和泉の PC から直接回収することになりました。私の責任です。申し訳ありません。

ただ、Google ドライブに作品を提出するという方法は、作品を共有でき、どこからでも作品を提出できるという点では便利ですが、容量の大きな作品の場合、うまくダウンロードできないなどのトラブルもあるので、来年は、提出方法に関して、その点を考慮して、設定すると良いと思います。

◎駿河台番発本番

発生した放送事故

- ・第二部の頭にワイヤレスピンマイクの電源を切り忘れ、雑音が発生した
原因) 完全な不注意で、ピンマイクの電源を切り忘れたため、ワイヤレスマイクのフェーダーをあげた直後、雑音が発生しました。
対処) すぐに原因がわかったため、ピンマイクの電源を切りました。
- ・第一部と第三部の一部で、SE が右側のスピーカーからしかなかった
原因) 不明です。ただ、どの辺に問題があるかは大体見当がついているので、同じ放送事故が起こらないように、正確に原因を究明します。
対処) 原因が不明だったため、特に対処はしておりません。また、演出上、そのまま進行しても問題ないと判断したので、そのまま続行しました。

・アスペクト比問題の解決

去年は番発本番で使用する教室のプレゼン卓に、HDMI ケーブル(映像を綺麗に流すために必要なケーブル)をさせるコネクタがなかったため、RCA ケーブル(比較的画質の悪い、旧式のケーブル)を使用しました。

今年はパート長会議で、使用する教室を選定する際に、HDMI ケーブルを接続できる設備のある教室を事前に調べ、指定したため、問題なくアスペクト比16:9のデジタル信号(映像が綺麗に流れる信号)で出力しました。

・先輩方に機材の撤収を一部やっていただいていたこと

去年の当日のスケジュールがかなり押したことを踏まえ、今年はかなり綿密にスケジュールの設定を行いました。技術的準備(当日提出の作品などの影響)が必要となり、休憩時間を伸ばすなどの措置を取ったため、結果として、スケジュール全体に遅れが生じました。そのため、先輩方に機材の撤収を一部手伝っていただくことになりました。これは良くないことなので、来年はスケジュール全体に遅れが生じないようにしていただきたいと思います。

◎機材ブースから会場までの他パートによる援助

今年も去年に引き続きリハーサルや本番で、機材の運搬を他パートの方々に手伝っていただきました。そのおかげで、設営・撤収の時間を大幅に短縮することができました。大変助かりました。ありがとうございました。

◎交通費支給

今年も去年と同様に、技術パート独自で行う活動の時に支給しました。支給対象は71代研修の1日目と2日目です。1日目は和泉キャンパスで開催し、明大前までの定期券がない方に支給する予定でしたが、対象者がいなかったため、支給はありませんでした。事実上、2日目の駿河台キャンパスまでの交通費の支給のみとなり、最終合計は7798円でした。(去年は8372円でした)昨年よりは少し抑えることができましたが、交通費はパート員が1人増えたり、通学距離が長い人が一人いたりするだけでも大きく変わるので、他パートの予算を圧迫しない範囲内で少し余裕を持たせていただけると大変ありがたいです。また、技術パート独自の活動への交通費支給に今後ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

◎スタジオストップ

今年も例年通り、番発本番に使用する機材を確実に確保・管理するため、スタジオストップを番発1週間前の6月16日(土)より行いました。これ以降の機材の持ち出しもありましたが、全て技術パート長への連絡・相談をした上での持ち出しだったので、問題はありませんでした。これから先の番発でも、本番の1週間前からスタジオストップをかけるとしますので、ご協力よろしくお願いいたします。

◎技術卓の位置

今年も会場の後方中央3列を技術卓として使用しました。トラブルの早期対応(特に、音響のトラブル)のために、これを継続していただきたいと思います。

◎使用機材について

今年も配線は例年通りだったので、基本的には前年と同じ機材を使用しました。ただ、近年やっていなかった試みとして、第一部と第二部の最後、第三部でガンマイクを中心とした使用した集音を行いました。使用に至った経緯を簡単に説明すると、第一部と第三部を演劇としたため、ハンドマイクではなく、ピンマイクによる集音を考えたのですが、ピンマイクは現在当サークルに1台しかなく、増備も難しく、増備しても、現在のシステム(SHURE の SVX システム)では2台同時使用が限界のため、ガンマイクを使用することになりました。また、ガンマイクの使用で誘発されるハウリングには、スピーカーを客席の直前に設置することやグラフィックイコライザーを使用することで、対処しましたが、若干ハウリングは起こりました。ここはこれから先の研究でより確実な解決策を考案します。

◎番発業務全般について

今年の駿河台番発で技術パート長として仕事をしていて、いくつか問題点があると感じたので、触れます。まず、台本のフォーマットの件ですが、委員長から完成した第一部と第三部のフォーマットのフォーマットをもらった時に、雑だなと思いました。改行が変になっていたり、脚本通りになっていなかったところがあったりとそのままでは使える状態ではなかったので、再度技術パート長と構成進行パート長が修正しました。番発の幹部をやる方は責任感と覚悟を持って、丁寧に仕事をしていただきたいと思いました。そして、番発の ED で使う映像の撮影を構成進行パート長がやっていたことです。当時、作品制作が終わっていたパート員がおり、彼らに任せるなどの方法でできたにもかかわらず、管轄外の構成進行パート長がそれをやっていたのは問題だと思います。また、作品・番発で使用する映像の管理をもっとしっかりと積極的に行うべきだったと思います。まとめると、番発業務など仕事はやるべき人が管轄内の仕事を全てやらなければ、他の関係各所にしわ寄せがいてしまいます。もし任せるのであれば、一

声かけるなどせめて一度相手に聞いた上で、頼むのが筋だと思いました。

◎最後に

今年の番発も技術としての収穫は比較的多かったと思います。また、ガンマイク中心の集音を行い、番発技術の可能性は広がったと思います。

また、今年の番発も大変多くの方々に助けられ、活動することができました。この場を借りて、感謝申し上げます。ありがとうございました。

そして、来年、納得のいく番発を作っていただきたいと思います。

文責:安藤 駿祐